

本時のねらい

・実験結果を Keynote を使って発表し、土の粒の大きさによって水のしみこみ方に違いがあることがわかる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・前時で 5 班に分かれそれぞれ異なる土を使って水のしみこみ方が違うことを調べる実験を行った。実験の様子を動画に収め、予想・実験動画・結果・考察を Keynote を使ってまとめた。本時では Keynote でまとめたことをクラス全体にプレゼンテーションする。プレゼンテーションを作っている中で実験を振り返り、整理することができ、実験結果を動画に収めることで実験結果を共有する。また、発表後、ロイロノート・スクールを使用し、自分の発表や他の班の発表、実験を振り返る。

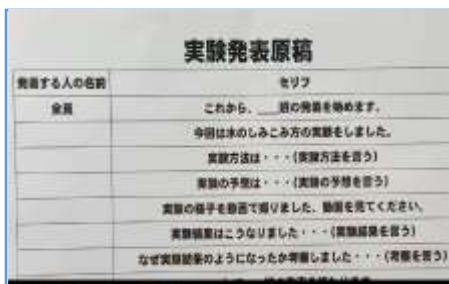
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・電子黒板 ・学習支援アプリ（ロイロノート・スクール） ・プレゼンテーションソフト（Keynote）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○前時の実験をふりかえりながら、プレゼンテーションソフト（Keynote）で水のしみこみ方の違いの実験結果を確認し、発表の練習をする。 【写真 1】	○実験を振り返り、整理することができる。 ○聞く相手にわかりやすい言葉や効果などを選ぶことができる。
展開 (30 分)	○プレゼンテーションソフト（Keynote）で、実験方法・予想・実験結果・考察をまとめ、発表する。 【写真 2】	○実験結果を動画に収めることで実験結果を共有しやすい。 ○さまざまな Keynote の効果を使うことで、聞く人を意識した発表につながる。
まとめ (5 分)	○学習支援アプリ（ロイロノート・スクール）の中にあるアンケート機能を使い、自分の発表や他の班の発表から実験を振り返る。 【写真 3】	○一人ひとりが学びを振り返ることができる ○各班の実験結果を見比べて土の粒の大きさによって水のしみこみ方に違いがあることに気づかせる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】発表の時に話すことをまとめた原稿



【写真 2】発表の台本を元にそれぞれ役割を決め、どのように発表したら相手に伝わるかを考えている様子。



【写真 3】相手に伝わるように意識しながらの発表している様子。

児童生徒の反応や変容

- ・発表前の練習の時、班ごとに役割を決め、どのように発表したら相手に伝わりやすいかなどを考えていた。
- ・聞く人を意識して体の向きや声の大きさに気をつけたり、聞く側は体の向きを発表者の方に向けたりしていた。
- ・他の班の実験動画を見て自分の班の実験結果との違いに気づく姿があった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・子どもたちはプレゼンテーションソフト（Keynote）を使用することで、相手に伝えることを意識し、積極的に実験をまとめることができた。この活動を通して、あらためて実験を振り返り、考えを整理することもできた。プレゼンテーション用のテンプレートや発表の手順を示した原稿を用意したことで、スムーズにプレゼンテーションの作成及び発表をすることができた。
- ・子どもたちがプレゼンテーションソフト（Keynote）を何回もくり返し使うことで、子どもたちのまとめ方や発表の仕方の向上につながった。